

令和6年度 学校経営計画

1 学校教育目標

- ・知性を磨き、社会の進展に対応できる力を育てる。
- ・自尊尊重の精神と情操豊かな心を育てる。
- ・健全な心身と未来を拓くたくましい力を育てる。

2 学校の特徴

- ・5学科各学年5～6クラスの総合制高校として魅力ある教育活動が展開できるよう、各学科の特性や生徒の実態等を踏まえ、一人ひとりの自己実現をめざした教育活動を推進しています。
- ・氷見市で唯一の高校として地域との結びつきを大切にしています。生徒の気質は明るく素直で、学習や部活動、生徒会活動をはじめ学校生活全般にわたって、ひたむきに一所懸命に取り組む校風があります。
- ・普通科では、ほとんどの生徒が国公立大学を主とした四年制大学等、進学を目指しており、2年次よりⅠ類型、Ⅱ類型に分かれ、各々において理系、文系の類型別授業を編成しています。生徒個々の興味・関心や進路希望等に応じた学習活動の充実に取り組んでいます。
- ・専門学科は、農業科学科・海洋科学科、ビジネス科、生活福祉科の3学級で構成しており、体験的学習や地域の事業者と連携して社会課題の解決を図るなど、実社会に役立つ多様な取り組みを通して、学びを深めています。
- ・令和2年度より地域との協働による探究学習に取り組んでいます。氷見市より、地域協働学習コーディネーターを派遣いただき、校外での学びの場や機会、人とのつながりの創造に取り組んでいただき、探究学習に価値あるリソースに恵まれる中、生徒の学びが広がっています。1年次「未来講座HIMI学Ⅰ」では、地域を中心とするフィールドワーク等とおして知識や体験を増やし、物事を探究する姿勢や学ぶ力を育成する課題解決型の探究学習を実践しています。2学年普通科では、「未来講座HIMI学Ⅱ」において、1年次の探究活動で立てた仮説に対して実働的に取り組み、実践、検証、実践の探究活動を行い、その成果をまとめて発信する取り組みを行っています。この取り組みに地元氷見市より資金援助をいただくなど、地域と協働しての取り組みとなっています。
- ・進路実現をサポートする「キャリア教育」の推進、各学科の枠を越えて将来への広い視野のために科目選択ができる「総合選択制」の導入、学科間連携など、特色ある教育活動を推進しています。
- ・『文武両道』の校風を大切にし、学習と部活動の両立に努めています。部活動では幾多の全国制覇の経験がある男子ハンドボール部をはじめとして、野球部、自転車競技部、女子ハンドボール部やその他多くの運動部、文化部が輝かしい成果を上げています。一方、生徒の学習意欲や進路意識の多様化が進む中、学校全体として主体的で協働的な学習指導及び進路指導體制を整え、生徒の学習意欲の向上を図ることが求められています。また、生活面においては、生徒の社会性や規範意識を醸成し、家庭や地域との連携に根ざした信頼される学校づくりを進める必要があります。

3 学校の現状と課題

本校は5学科を有する総合制高校です。各学科の生徒は経験、技能、専門性、意欲等において、多様な価値観を有しており、協働した学びの中で互いを高め合う可能性に満ちています。学校全体としても、多くの学科を有することを強みにして、新たな価値を創造する可能性があり、それらの可能性を最大限に活かすため、スクールポリシーで「育成を目指す資質・能力」を以下のように定めています。

- (1) 自育する力（社会に有為な自己像を設定して、現状の自分を省察し、たゆまず学び続ける人物）
- (2) 連携する力（他者理解と尊重に努め、目的達成のための自分の役割を意識して協働できる人物）
- (3) 探究する力（自分を取り巻く社会を愛し貢献を果たす態度と、問題解決の手法を身につけた人物）

また、学校課題として以下の3点を挙げ、重点目標を設定し、学校経営に取り組めます。

- ① 個に応じた学習指導、進路指導のあり方
- ② 学科の専門性の深化、学科間の横断的な学び、生徒の連携・協力の機会の創造
- ③ 社会に貢献し、問題解決能力の高い人物の育成

4 学校教育計画

項目		目標・方針及び計画	
1	学習活動	目標	<p>① 個に応じた学習指導を目標とし、生徒の能力や意欲・理解度に応じた主体的な学びを創造する工夫を施す。</p> <p>② ICT機器を有効活用する姿勢を育むとともに、教職員がICT機器の有効性を一層学び、より活用範囲を広げつつ主体的な学びの充実を図る。</p> <p>③ 地域と学校が協働した学びをとおして、教科学習への学びのモチベーションの向上を図る。</p>
		計画	<p>① <u>スタディサプリ、Classi、Google classroomなどの教育アプリケーションやデジタル学習コンテンツを生徒、教職員が一体となってその価値を最大限に活用し、学習意欲の向上に繋がるよう努める。</u></p> <p>② <u>教職員がICT機器を使用することで、生徒の理解が高まるだけでなく、創造的な学びが展開されるよう努め、互見授業を通して研鑽し合うことで授業改善を進める。</u></p> <p>③ <u>課題発見、課題に向かう探究的な地域協働学習の学びのプロセスで、教科学習への学びのモチベーションを高めるよう努める。</u></p> <p>④ 地域協働学習を通して「地域と一体なった学校づくり」を推進し地域との協働体制の拡充に努める。生徒が地域をフィールドとして学び、地域の方々と共に課題発見、解決に向けて努力することで地域づくりに関わる。また、この取り組みを通して、地域人材を育成するカリキュラム開発と実践を行い、地域創生に主体的に携わる人材の育成を図る。</p>
2	学校生活	目標	<p>① 生徒が主体となった校則の見直し等の取り組みにより、「誇りに思える氷見高校社会」を生徒、教職員が一体となって創造する。</p> <p>② いじめ撲滅等、「安心して過ごせる氷見高校社会」を生徒、教職員が一体となって創造する。</p> <p>③ 生徒が主体的に健康課題を見つけ、解決に向かう力を育む。</p> <p>④ 人命尊重と災害防止の指導の徹底を図り、防災について万全の体制を整えるよう努める。</p>
		計画	<p>① <u>県下一斉に実施される「さわやか運動」や本校の「氷高さわかデイ」を通じた挨拶の励行や遅刻防止、交通・乗車マナーを守ることや服装を整えることなどの基本的な生活習慣を、校風委員による呼びかけ等、生徒相互のチェック機能を働かせながら、身に付けさせる。</u></p> <p>② <u>「安心して過ごせる氷見高校社会」をキーワードとして、様々な活動を展開する。いじめ撲滅や人間関係に関する悩み、問題行動を早期に把握し、各学年や保健厚生部と連携し、生徒との信頼関係に基づく対応を推進する。</u></p> <p>③ <u>食事の見直しなど、生徒自らが健康課題を発見、解決できる意識を高めることができるよう、生徒保健委員会やPTA保健体育委員会と連携して取り組む。</u></p> <p>④ 生徒の心身不調の原因を早期に発見し、スクールカウンセラーや巡回指導員等との相談および各学年や保護者等とも適切に連携を図り対応する。</p>

3	進路支援	目標	<ul style="list-style-type: none"> ① 進路実現の手立てについて、生徒の理解と主体的な行動を促進し、生徒自身が主体的に自らの将来に希望を持てる企画に取り組む。 ② 進路関連行事や個人面接等の充実と進路意識の高揚に向けての取組を充実させる。 ③ 自己の生き方を考え、職業観を踏まえた進路設計を立てさせる。
		計画	<ul style="list-style-type: none"> ① <u>教員間で進路情報の共有を図り面接内容の充実を図ることに加え、生徒個々の進路目標に照らし学習面での到達度を生徒が確認できるシステムの再整備を進める。</u> ② <u>学年間の連携を密にし、3年間を見通した継続的・計画的な進路指導体制の確立を図る。また個人面接や進路に関するHRを充実させ、生徒の進路意識が明確になるよう適切な進路指導を行う。</u> ③ <u>就職指導については、2学年の専門学科が一斉に行うインターンシップに取り組むとともに、3学年については、求人票に基づく企業研究や会社訪問等を通して職業観や勤労意欲を持たせる。</u>
4	特別活動	目標	<ul style="list-style-type: none"> ① 学校行事、部活動、ボランティア活動等への積極的な参加を通して自主性・積極性・思いやりの心を育てる。 ② 諸行事の企画や運営を通して集団の一員としての自覚を高め、たくましく生きる力と好ましい人間関係を備えた生徒を育てる。
		計画	<ul style="list-style-type: none"> ① <u>生徒が積極的に学校行事に参加できるよう、生徒会が中心となって生徒と教職員の意見や要望を集約し、行事の内容を一層充実させる。</u> ② <u>限られた時間を有効に活用し、休養日を含めたメリハリのある部活動の取り組みを目指しながら、人間性の向上を図るよう意識づける。</u> ③ <u>ボランティア推進委員会を中心に、各専門学科クラブ、部活動と連携して、生徒の主体性に基づいて、身近で今できるボランティア活動を推進する。</u>
5	その他 (情報発信及び家庭との連携)	目標	<ul style="list-style-type: none"> ① 本校の様々な教育活動に対して保護者や地域の理解を広げられるように努め、連携して生徒の育成を図る。 ② 適切な情報発信力の育成及び情報共有手段の活用を図る。
		計画	<ul style="list-style-type: none"> ① <u>地域と連携した活動への参加を積極的に進める一方、PTA参加行事の内容をより保護者の関心が高いものとなるよう検討することでより多くの方々の学校行事等への参加を目指すことを旨とする。</u> ② <u>ホームページの内容の改善や新たに公式SNS等を設けることで、本校の取り組みの発信力を高め、多くの方に理解いただけるよう工夫を施す。</u> ③ 情報機器の適切で安全な利用について、情報モラルの育成を図る。 ④ 「氷高ほっとメール(教育安全メール)」に対する保護者満足度の向上を図る。リアルタイムに情報発信をし、一斉メール以外に学年や学科に特化した情報の配信を通して、家庭に情報を伝えることで、協力体制のさらなる充実を図る。

5 今年度の重点課題（学校アクションプラン）

令和6年度 氷見高等学校アクションプラン - 1 -			
重点項目	学習活動（生徒の主体的な学び）		
重点課題	I C T活用と地域協働学習による主体的な学びの深化		
現 状	<p>(1) I C T活用の推進 Society5.0の時代において求められる資質・能力の向上のため、I C Tの環境整備が進められ、学校では教員・生徒一人一台のタブレットが貸与されている。I C Tの活用は生徒の「興味・関心を高める」「課題を明確につかむことができる」「図や写真の提示により理解が深まる」「知識の定着が図られる」などの多くのメリットがある。このことから、現在、教育のあらゆる場面においてI C Tを効果的に活用していくことが求められている。しかし、授業での活用の現状として、指導用P Cのプロジェクタへの拡大提示は多数行われているが生徒のタブレット活用は、一部の授業にとどまっている。I C Tを用いた協働的な学習や家庭学習における積極的な活用もさらにすすめていきたい。そのためにも、教員側のスキルアップを図り、I C Tを活用するスタイルへと積極的に授業改善を行う必要がある。</p> <p>(2) 地域協働学習について 本校では今年度、探究学習の深化を図ることを目的としてカリキュラムの見直しを行い、令和5年度入学生より、2年間の継続研究を行うこととした。これにより全てのグループが課題解決等に向け、検証、分析、再検証を行うだけの時間を確保した。さらに、今年度は、氷見市より課題解決実行のための経済的な支援もあり、昨年度までとは違い、自分たちの解決案を行動に移すことができる。それによって、知識の詰め込みや暗記型学習から脱却し、生徒が本来持つ資質・能力の伸長が期待される。このように、地域と学校の連携がさらに深化し、「本格的な学びの場」で学ぶことが、さらなる学校の魅力化につながると思われる。</p>		
達成目標	<table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 50%; vertical-align: top; border-right: 1px solid black;"> <p>(1) ①生徒の学習でのI C T活用頻度が高まり、より主体的な学びにつながったと感じた生徒の割合を増加させる。 ②教員のI C Tを用いた授業頻度を高める。</p> </td> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> <p>(2) ①地域協働学習により、教科学習の学びのモチベーションが高まったという生徒の割合 ・・・80% ②地域協働学習に取り組んだことで、自らの問題解決能力の向上に繋がったと感じた生徒の割合 ・・・80%</p> </td> </tr> </table>	<p>(1) ①生徒の学習でのI C T活用頻度が高まり、より主体的な学びにつながったと感じた生徒の割合を増加させる。 ②教員のI C Tを用いた授業頻度を高める。</p>	<p>(2) ①地域協働学習により、教科学習の学びのモチベーションが高まったという生徒の割合 ・・・80% ②地域協働学習に取り組んだことで、自らの問題解決能力の向上に繋がったと感じた生徒の割合 ・・・80%</p>
<p>(1) ①生徒の学習でのI C T活用頻度が高まり、より主体的な学びにつながったと感じた生徒の割合を増加させる。 ②教員のI C Tを用いた授業頻度を高める。</p>	<p>(2) ①地域協働学習により、教科学習の学びのモチベーションが高まったという生徒の割合 ・・・80% ②地域協働学習に取り組んだことで、自らの問題解決能力の向上に繋がったと感じた生徒の割合 ・・・80%</p>		
方 策	<p>(1) ・年2回実施している互研授業週間において、I C Tを活用した授業を積極的に参観することで、授業改善を全教員で行う。また、教員のスキルアップのための研修を行うことで、授業での活用頻度を増やしていく。 ・教育クラウドサービスによる課題提示や個別最適な学びに向けたデジタル副教材の活用により、生徒が日常的にI C Tを利用し、家庭においても能動的に学習を進める習慣づくりを行う。</p> <p>(2) ・伴走者の配置（「未来講座H I M I 学Ⅰ」「未来講座H I M I 学Ⅱ」） 各グループに課題の内容に応じた外部人材を伴走者として配置する。外部人材延べ20名程度、各年間4回程度の授業参加（フィールドワークを含む）を予定。 ・地域の探究実践者と語る（「未来講座H I M I 学Ⅰ」） 地域の課題解決に取り組む外部人材を一斉に本校に集め、生徒は興味のある分野についての話を聞き、テーマ設定のヒントとする。今年度は20名程度を招致。 ・校内発表会の開催（「未来講座H I M I 学Ⅰ」「未来講座H I M I 学Ⅱ」） ポスターセッション形式や発表形式で実施する。地域の方など外部の方々にも参加していただく。 ・校外発表会（「未来講座H I M I 学Ⅱ」） 今年度は初めて氷見市芸術文化館においてポスターセッション形式や発表形式で実施する。中学校教員や中学生を含めた広く一般に公開する。 地域協働学習によって、本校生徒の学びのモチベーションを向上させるだけでなく、本校の魅力を地域の方に周知できることが今年度の目標である。</p>		

令和6年度 氷見高等学校アクションプラン - 2 -

重点項目	学校生活（心身ともに健康で充実した高校生活）		
重点課題	「誇りに思える氷見高校社会」、いじめ撲滅等「安心して過ごせる氷見高校社会」の構築に向けての社会観と健康を大切にする意識の育成		
現 状	<ul style="list-style-type: none"> ・さわやかな挨拶を交し合える学校を目指し、定期的に「あいさつ運動」を行っており、日々の学校生活の中で、自発的に挨拶をする生徒が多くなってきている。しかし、整髪、制服の着こなしや校内における携帯電話の取り扱いに関しては、一部には意識の低い生徒が見られる。生徒が主体となった校則の見直し等の取り組みにより、「誇りに思える氷見高校社会」を創造することで、自己有用感を持って学校生活を送ることができるようにする必要がある。 ・人間関係における不安や悩みは、常に注視すべきことである。いじめ撲滅等「安心して過ごせる氷見高校社会」を生徒と一体となって創造するという視点で、より良き学校生活を安定して送ることができるようにする必要がある。 ・一般的に高校へ入学すると、健康診断結果による治療よりも部活動を優先してしまったり、受検時期に治療のタイミングを逃してしまったりするなど健康管理が疎かになる傾向があるため、自立的な健康管理の意識付けを行う必要がある。特に、歯科検診では、本人が不調を感じていない場合に受診せずに済ませてしまい、治療率が向上しない現状がある。 		
達成目標	① 生徒主体の取り組みによる挨拶・服装・携帯電話の取り扱い等の規範意識の向上	② いじめ撲滅等、「安心して過ごせる氷見高校社会」に関する意識の向上	③ 生徒が主体的に健康課題を発見、解決できる力を育む
	生徒意識調査における規範意識率 90%以上	生徒意識調査における「安心して過ごせる氷見高校社会」の創造に対する意識率 100%	生徒意識調査による「健康課題の解決とどう向き合うか」に対する意識向上率 60%以上
方 策	<p>① 県下一斉による年1回の「さわやか運動」、本校独自による年7回の「氷高さわやかデイ」の取り組みにおいて、挨拶の意義を事前指導し、挨拶の価値を意識させながら実施する。また、「誇りに思える氷見高校社会」をキーワードに、生徒会執行部や校風委員及び交通委員が中心となって、校則の見直しをはじめとした、生徒が主体となった取り組みにより、「挨拶の励行」「交通安全（自転車乗車マナー等）」「校内における携帯電話の取り扱いについて」など社会的マナーの向上に努める。</p> <p>② いじめ撲滅等「安心して過ごせる氷見高校社会」をキーワードとして、様々な活動を展開する。具体的には集会等で「命の尊重」を訴えるとともに、学期ごとに「被害調査」によるアンケートや日々の生徒観察で人間関係に関する悩みや問題行動を早期に把握・察知する。さらに、得た情報をもとに、迅速かつ周到に対応する「いじめ対策委員会」等の体制を構築する。</p>		③ 生徒保健委員会を通じて、生徒の健康課題を探り、食事等、個別の健康課題の解決に向けて、生徒が主体的に考えるような取り組みを工夫する。生徒保健委員会の活動、PTA保健体育委員会の活動を連携できるよう工夫し、生徒、保護者の連携した活動を促す工夫を施す。生徒や保護者への情報発信を通じて、健康課題を解決する取り組みを促していく。

令和6年度 氷見高等学校アクションプラン - 3 -

重点項目	進路支援（生徒の進路実現に向けた進路指導）	
重点課題	個々の生徒に応じた進路指導の取り組み	
現 状	<ul style="list-style-type: none"> ・5学科を有する総合制の高校であり、同じ学科の中にも多様な学力や価値観を持つ生徒がおり、一律の指導に適さない。個々の生徒の適性と希望に応じた進路を実現するためには、生徒に自分自身を理解させた上、各自に合った進路学習を主体的に進める方法を身につけさせる必要がある。 ・職業や上級学校についての理解や、入学試験・就職試験などに対する基本的な知識量が不足している。ICT機器の利用に慣れており、進路研究等に活用させたい。 ・生徒自身が進路について継続的に考え、職業や自分の将来について話をする雰囲気醸成する必要がある。高い志を持って主体的に進路実現に挑戦する生徒を育成する体制強化が重要であり、面接指導やホームルームの活用が求められる。 ・3学年は、9月の就職試験から3月の国公立大学後期日程まで7か月にわたる多様な受験を指導・サポートする。5学科それぞれの特性と個々の生徒が培ってきた様々な学力が、進路選択と受験にメリットとなるよう、学年、教科、各部署との連携をより密にする必要がある。 ・面談技術や受験情報の収集・提示方法、保護者との連携など、進路指導のノウハウを蓄積・向上させる体制の充実を図る必要がある。 	
達成目標	① 進路実現の手立てについて、生徒の理解と主体的な行動の促進	② 進路関連行事や個人面接等の充実と進路意識の高揚
	<ul style="list-style-type: none"> ・学校行事以外の大学等見学、企業見学やオープンキャンパスへの参加率（オンライン参加含む） 1 学年＝30%以上、2 学年＝50%以上 3 学年＝75%以上 ・ICT機器を活用した進路学習に対する生徒の満足度 80%以上 	<ul style="list-style-type: none"> ・進路統一ホームルームや大学等見学の満足度 70%以上 ・生徒が感じる面接等の満足度 80%以上
方 策	③ 進路希望の実現（第3学年 進学希望者）	④ 進路希望の実現（第3学年 就職希望者）
	<ul style="list-style-type: none"> ・3年9月進路希望調査（校種）に対し 普通科：第一志望達成率 80% 専門学科：第一志望達成率 90% 	<ul style="list-style-type: none"> ・就職希望者の就職内定率 100%
方 策	<ul style="list-style-type: none"> ・キャリア学習と進路の手立てを知る機会を設けるなど、各学年に応じた計画的な進路指導を行うことで、早期に自己の適性の理解及び将来設計を具体化させ、意欲的に学習ができるように指導する。 ・生徒がそれぞれの進路目標や学力に応じて、学習の計画や進路学習に取り組めるよう、学習支援ソフトの活用法を研究し、学年で共有する。 ・進路に関するホームルームを実施し、より効果的な系統指導プログラムを作成して、学年全体での計画的な指導体制の共有化を図る。（進路統一ホームルームを年3回程度実施） ・各学年と連携し、3年間を見通した進路指導を行う。 1 年次・・・「進路ガイダンス」「職業人から学ぶ」「学問・職業の研究」「文理選択」「卒業生と語る会」他 2 年次・・・「大学等見学」「修学旅行（班別研修）」「学部学科の研究」「オープンキャンパス」「インターンシップ」「卒業生と語る会」他 3 年次・・・「進路ガイダンス」「オープンキャンパス」「就職説明会」「企業見学」「進学検討会」他 ・個々の生徒の学力と進路に関する情報について、教員間で共有する。 ・生徒や保護者向けの進路説明会を実施し、情報提供をより進める。 	

令和6年度 氷見高等学校アクションプラン - 4 -

重点項目	特別活動		
重点課題	学校行事・部活動・及び各主体による地域連携活動のさらなる活性化		
現 状	<ul style="list-style-type: none"> ・学校行事は、多くがコロナ禍前の内容での実施となる。コロナ禍での改善案も取り入れて全校生徒の参加意識や達成感、協調性をより高めていくために、生徒の意見を取り入れながら、生徒会執行部を中心に企画・運営を連携して実施する。 ・部活動は、全校生徒の約88%が加入しており、生徒の自己肯定感の向上に大いに寄与している。休養日週2日制の中、限られた時間を有効活用するために、コロナ禍による簡略化も活かし、明確な活動計画と集中した時間活用の工夫が求められる。 ・コロナ禍で自粛してきたボランティア活動を再開する動きが目立つ。地域と連携した美化活動の計画やボランティア推進委員会を中心に家庭クラブやJRC部等とも連携し、ボランティア活動に参加する生徒を増やしていきたい。 		
達成目標	① 各学校行事の内容の充実	② 部活動に参加することで自己肯定感を高める生徒の増加	③ ボランティア活動への参加意識の高揚
	各行事に対する生徒の満足度 90%以上	3学年生徒の満足度 90%以上	美化活動、環境保全活動、募金活動等への全校生徒の意欲的参加
方 策	<ul style="list-style-type: none"> ① 各行事の前に各種委員会の開催や生徒会便りの発行を行い、行事についての実施要項等を周知していく。また、行事後にアンケートを行うことで、生徒の達成感が高まるよう改善点を加え、次年度に活かすよう工夫する。 ② 部活動で人間性の向上を図ることの大切さを全校生徒に意識させつつ、メリハリのある取り組みを促す。生徒にアンケートで部活動に対する意識調査を行い、結果を各部顧問に知らせ、前向きになれるよう支援活動に活かす。 ③ ボランティア推進委員会を中心に、ボランティア活動のチラシの掲示や放送などを通して、全校生徒に積極的な参加を呼びかけるとともに、ボランティア後の記録や感想を残すなど、振り返りの機会を設け、社会に貢献する態度を養う。 		

令和6年度 氷見高等学校アクションプラン - 5 -

重点項目	その他（情報発信及び家庭との連携）	
重点課題	適切な情報発信及び保護者との情報共有の推進	
現 状	<ul style="list-style-type: none"> 家庭との連携を図るために、PTA活動への積極的な参加を呼びかけている。 PTA定期総会の実施…昨年、総会への参加保護者数は、24.4%（1年28.3%、2年15.2%、3年29.7%）とコロナ感染症が減少に移行しても以前の状態には戻っていない現状である。一方、学年別研修会では、3年84.6%（普77.6%、専91.5%）、2年53.4%（普72.6%、35.9%）、1年59.1%（普86.3%、専40.7%）学年別PTA研修会のニーズは高く、参加率は増加している。 PTAと生徒の懇談会の開催…令和元年度より開催を継続している。昨年度も2回の懇談会を実施し、学校生活や部活動に必要な物品などの要望について話し合い、より充実した学校生活を送ることができるよう予算内で優先順位を協議し整備している。 PTA会報「ゆづるは」の発行…広報委員により年2回の発行を継続している。体育大会や氷高祭などの学校行事、授業の様子や部活動などの様子を紙面を通じて発信している。 学校と保護者との情報共有手段として、「氷高ほっとメール(安心安全メール)」への登録を保護者に呼びかけており、登録率は高い水準（97.1%）で安定している。 学校の広報活動としてホームページを活用している。学校の紹介や行事等を随時掲載しているが、更新の遅れや内容に不十分な箇所があり見直す必要がある。 	
達成目標	<p>① 総会への参加を促す企画の立案、実現。各行事の情報の発信。</p> <ul style="list-style-type: none"> 定期総会、講演会への参加保護者数125人（25%）以上 各学年PTA研修会保護者参加率3年90%、2年、1年70%以上 	<p>② ホームページの年間閲覧者数の増加。</p> <ul style="list-style-type: none"> 昨年の6万5千人から10万人への増加 本校では各分掌や学科ごとにホームページ担当者を設けており、リアルタイムに情報を発信できる体制が整っている。 本校には学校のPRとなる学校行事や部活動が多くあるが、まだまだホームページに反映されているとは言えない。 1日の閲覧者数は現在200人前後を推移しており、1日の平均が300人に迫れば達成できる目標である。
方 策	<ul style="list-style-type: none"> 定期総会の内容を整理し、時間を短縮する。 家庭や親子関係などの悩み応える講演内容を精選し、提供する。 各行事の案内や活動報告をHPやメールで発信し、興味・関心を高める。 参加できなかった保護者に対し、資料の配付にとどまらず、意見や要望の受付窓口を用意する。 	<ul style="list-style-type: none"> 最新の記事を投稿する体制はできているが、ホームページ全体を統括して管理する分掌が明確でなかった。そこで教務部の「情報管理の総括」でホームページを統括する。 全職員にホームページを見てもらい意見を集約しやすい環境を作る。 月に1回程度、ホームページ閲覧者数を全職員に知らせる。 内容によっては「氷高ほっとメール」を活用してホームページの閲覧を促す。